様式第６号の１１

その１

学番	中等２	新潟県立柏崎翔洋中等教育学校

平成 29 年度　　学校自己評価表（報告）

学　校　運　営　計　画	
学校運営方針	保護者と地域の期待に応え、豊かな人間性と創造力を身につけ、国際的な視野をもち、社会や地域のリーダーを目指す生徒を育成する。 そのために、「学校は学ぶところ」という基盤に立ち、明るく、たくましい進学校として、次に掲げる資質を育む。 (1)　自立して生きるための基礎となる学力 (2)　他者と協力して生きるための豊かな心 (3)　自己実現のために必要な気力及び体力

昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標〈つけたい力〉
○　前期課程では、７限の時間帯を活用した学習会を定着させた。課題解消会や発展講座の実施により、学習習慣の定着や学力向上に効果があった。 ○　キャリア教育として例年行ってきた各種講演会や職場体験、社会研修旅行等に加え、希望者対象の「東大 i.school in 柏崎」や柏崎総合医療センター訪問等を実施し、生徒の探究心や主体性の伸長を図った。 学年部中心に取り組んできた進路探究活動や総合的な学習の時間の計画立案等に、進路指導部や教務部等が今まで以上に深く関わることで、６年間の系統性を高めたい。 ○　６年生に対する教科ごとの個別指導を充実させた。難関大学合格率は過去最高とほぼ同率の 9.3%であった。 一方、国公立大合格率は 32.3%と低調であった。学習指導・進路指導の方策の見直しと強化が急務である。 ○　「アクティブラーニングで育てたい資質・能力とその手立て」をテーマとして、すべての教員による研修会（全５回）と授業公開を行い、授業力向上を図った。 ○　生徒指導、いじめ不登校対策委員会を中心に、情報交換や生徒アンケートの実施により、いじめの未然防止、早期発見、対応に努めた。 ○　部活動等では、前期課程の陸上競技部、柔道が全国大会に、特設水泳部が北信越大会に、それぞれ出場した。後期課程では、日本文化部（百人一首）が全国大会に、空手道が北信越大会に、それぞれ出場した。 ○　本校の教育目標を実現させるとともに、ふるさとへの愛着と誇りを胸に抱き、社会や地域で活躍する人材を育成するためには、今まで以上に地域とのかかわりを深めていく必要がある。	学力の伸長及びキャリア教育の充実 （中高一貫教育を活かし、優れた専門性の基礎づくり）	学ぶ目的や働く意義の理解を通し、自分の将来に目標をもち、主体的に学ぶ力を育成する。 〈キャリアプランニング能力〉
	全員の希望進路の実現に向けた確かな学力の定着	自分の希望進路の実現を見据え、課題を見つけ、分析し、計画を立てて解決する力を育成する。 〈課題対応能力〉
	公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実 （高い倫理性の基礎づくり） ●道徳教育推進事業・研究推進校としての実践	自分の役割を理解し、他者と協力して、積極的によりよい集団や社会を形成しようとする力を育成する。 〈人間関係形成・社会形成能力〉
	心身鍛練及び健康管理の充実（自己実現に必要な気力・体力づくり）	自分の個性や特徴を理解し、向上心をもって主体的に行動する力や、自分の考えや感情を律し、あきらめずに努力する力を育成する。 〈自己理解・自己管理能力〉
	故郷への愛着・共生、気づき・かかわる力の向上 （共に生きる社会参画への基礎づくり、自己肯定感の向上） ●「かしわざき学」の実践 ●道徳教育推進事業・研究推進校としての実践	地域との交流や校外活動を通して、社会や母校に貢献しようとする意欲を高める。 〈地域連携・社会貢献〉

重点目標	具体的目標		具体的方策	評価	
学力の伸長及びキャリア教育の充実	教務部	・６年間を見通して、「総合的な学習の時間」において系統的な指導を行う。 ・より良い年間行事計画を提案する。	・各学年の「総合的な学習の時間」の計画において、生徒の将来像を意識した行事、活動計画を立案する。 ・式典等の実施計画や実施後の総括をもとに、改善や見直しを行う。	A	A
	生徒指導部	・生徒会行事の準備、運営を通して、勤労観や職業意識を育てる。	・体育祭、文化祭、球技大会など各種行事において、委員会、係の仕事を責任持って行うことで、実際の社会で働くことを疑似体験させ、全体のために働くことを学ばせる。	A	
	進路指導部	・６年間を見通した進路指導計画のもと、進路学習や進路講演会などを実施し、生徒が将来のビジョンを持てるようにする。 ・生徒に適切な進路情報を提示する。 ・学習習慣を定着させ、学力の伸長を図る。	・キャリア形成に関する講演などを発達段階に応じて計画的に行う。また、年間指導計画を随時見直し、より効果的な進路指導計画を作成する。 ・学年便りなどを通して、進路情報を提供する。 ・家庭学習時間の調査を行い、学年部と連携して、学習時間の少ない生徒の指導などを行う。	A	
	１学年	1　世の中や社会の仕組みを学ぶことにより、生徒が自己の生き方を創造する力の育成 2　基本的生活習慣の確立と目標に裏打ちされた学習習慣の確立 3　主体的に学ぶ力・かかわり合って学び合う力の育成 4　望ましい職業観、勤労観の育成	1・4　他とかかわる機会の多い体験活動を仕組む。 「地域調べ」「大学見学」「職場見学」など地域に根ざした体験活動を実施する。 2　自分の生活を管理と規則正しい生活についての指導を継続して行う。(生活ノート、休日指導) 2　７限学習会を活用し、学び方、学び合いの学習の実施 3　かかわり合い学習を積極的に取り入れる。 4　身近な働く人調べなど家庭と連携した学習を行う。	A	
	２学年	・自分の将来の目標を達成するため、日常の家庭学習の習慣を定着させる。	・課題の未解消の生徒を対象に、放課後に課題解消会を行う。 ・月曜日までに課題を提出できないと思われる生徒に教育相談を行うとともに、その保護者に連絡して指導の協力を依頼する。	C	
	３学年	・SAT に向けて基本的生活習慣、学習習慣の確立を図る。 ・学ぶことや働くことの意義を考え、自己の興味・関心と 結びつけ、明確な将来像を描かせる。	・「生活記録表」を用いて日々の計画を立てさせ、達成状況をチェックする。 ・「職業レディネステスト」や「大学訪問」を実施し、進路実現に向けての意識付けを行う。 ・「立志式」をきっかけに、現段階での将来像や夢を具体的に考えさせる。	A	
	４学年	・基本的生活習慣・学習習慣を確立させる。 ・将来の進路の参考となるよう、進路講演会を実施する。 ・意識啓発講演会を実施し、学びに対しての意識を高める。	・「生活記録表」をチェックし、生徒に家庭学習時間の目標達成を促す。 ・課題提出率が 90%以上となるよう、生徒に繰り返し粘り強く指導する。 ・講演会は生徒の意識を啓発する内容となるよう、計画・実施を行う。講演会実施後に教員が内容等について評価する。	B	
	５学年	・基本的生活習慣・学習習慣を確立させる。 ・学年便り等で、キャリア教育に関しての学びを進める。 ・社会研修旅行において、職業観の育成や、卒業後の進路目標の明確化を図る。	・「生活記録表」をチェックし、生活習慣・学習習慣に問題がないか、常に注意する。 ・学年便りの内容が、キャリア教育の理解につながるものになるよう心がける。 ・社会研修旅行が、実りあるものになるよう、企画を旅行会社と綿密に検討する。	B	
	６学年	・キャリアに関した意識を高める。 ・家庭学習時間の目標達成率 50%以上。 ・課題提出率 90%以上。 ・進路を明確にさせ、志望校・志望分野を決定する。	・正しい勤労意識を持たせるため、学年通信などで情報提供を行う。 ・課題をこまめにチェックし、未提出のものに提出を呼びかける。 ・面談を通じ、学習時間の不足している生徒には、アドバイスをし、より充実した学習が行えるよう励ます。 ・進路講演会を実施する。	A	
	国語科	・小テストの合格率が 80%以上となる。 ・課題の提出率が 90%以上となる。	・小テストでは、漢字・古文単語・漢文句形を中心に基礎学力の定着を目指す。 ・再テスト等を実施し、全生徒の基礎学力の定着を目指す。 ・演習問題を中心とした課題を提示し、読解力をつけさせる。	A	
	社会科	・生徒一人ひとりの授業への関心・意欲を高め、学ぶ目的を認識させ、主体的に学べるようにする。	・「指示・発問の明確化」に努め生徒の理解や関心を高めるようにする。 ・生徒の理解が捗るように配色・ノートを意識した板書を行う。	B	
	数学科	・朝テストの合格率が 80%以上となる。 ・課題の提出率が 90%以上となる。	・朝テストでは、基礎・基本を中心とした問題とし、定着を図る。 ・学力に応じた課題を提示する。 ・個別に面談等で対応する。	B	
	理科	【前期課程】 ・学習意欲を向上させるような授業展開を行い、理科好きの生徒を増やす。 【前・後期 】 ・配色・ノートを意識した板書を行い、理解しやすい、分かりやすい授業を心がける。	【前期課程】 ・年間 20 以上の実験を行い、思考力、推察力を高め、意欲向上 に繋げる。 【前・後期課程】 ・各科目の授業をそれぞれ見学し、教科内での研修を行う。	A	
	英語科	・授業を大切にし、楽しくかつ充実した内容になるように計画する。 ・英語検定を全員が受験し、合格率が５０％以上になる。また、英語検定受験率部門の団体賞を受賞する。	・朝テストや、各種課題を、担当学年及び生徒の実態に合ったものにする。 ・日常的に授業を公開し、室の高い授業が展開されるように心がける。 ・受検者対象に、個別指導を実施する。	A	
	保健体育科	・自分の健康や体力に関心を持ち、その増進や向上を目指して意欲的に学ぶ態度を育てる。	・体力テストの結果をもとに、各自の課題を把握させる。 ・学習内容が、健康の増進や体力の向上にどのように関連しているかを説明しながら授業を進める。	A	

重点目標	具体的目標		具体的方策	評価	
全員の進路希望実現	教務部	・より良い年間行事計画を提案する。 ・生徒が考査ごとに、学習計画や学習状況を見直せるようにし、学習の習慣化を図る。	・年間行事計画の作成時に、各分掌には、行事の時期を検討してもらい、部活動の大会等の時期も考慮し、考査間隔を平均化できるよう提案する。 ・各考査の最終日に学活・ＬＨＲを入れ、振り返りができるようにする。	A	B
	生徒指導部	・進路実現のための教育相談を充実させる。	・年３回の教育相談アンケートを実施し、それに基づいた教育相談を行い、学校生活の充実と進路実現のために適切な支援を行う。	B	
	進路指導部	・進路希望調査を実施し、調査結果を基に適切な進路指導を行う。 ・土曜講座、課外学習、学習合宿、ＰＣ教室自習会などを実施し、生徒の学力を向上させる。 ・模擬試験を実施し、生徒の学力向上に繋げる。	・進路希望調査や模試の結果などを分析し、生徒の個別面談などを実施する。 ・土曜講座、課外学習、学習合宿、ＰＣ教室自習会などを計画的に実施し、生徒の学力を向上させる。 ・模擬試験後に学習到達度や状況を分析し、教科、進路指導に活用する。	B	
	１学年	１　自分の学習方法を見つけることができる、 ２　家庭学習時間の目標達成率 （平日２時間、休日３時間） ３　課題提出率 100%	１　短学活で時間の使い方や目標を具体的に指導する。 ２　選択できることを設け、興味のあること、好きな分野に没頭できることを通して、成功体験を積み上げる。 １・３　毎日の家庭学習の計画をその日の終学活で行う。（助言を行う）	B	
	２学年	・自分の進路希望を実現するため、各種考査で安定した結果を収めさせる。	・教科担任から授業態度の情報を収集し、学級指導に生かす。 ・考査２週間前から家庭学習計画表を配付し、計画的に学習できるようにする。	A	
	３学年	・各教科の課題の提出を徹底させ学力の定着を図る。 ・SAC、SAT を通して、前期課程の学習内容を確実に定着させ、後期課程の学習につなげる。	・課題解消のための放課後学習会を随時行う。 ・学年だよりを定期的に発行して学校の情報を家庭に提供するとともに、家庭訪問や面談・ＰＴＡ活動等を計画的に行う。面談等の内容を吟味し、タイミングを逃さずに支援を行う。	A	
	４学年	・進路学習の充実や文理選択の決定を通じて生徒の進路意識を明確にさせ、志望校決定に結びつけさせる。	・志望校・志望分野決定者が 100%となるよう生徒に指導する。 ・「進研模試」で偏差値 58 以上が 30 人以上、偏差値 50 が 40 人以上になることを目指し、事前・事後の指導を行う。	B	
	５学年	・計画的に学習を行わせる。また、授業を大切にする指導を行う。 ・平日 4 時間、休日 5 時間の家庭学習が習慣化するよう、働きかける。 ・進路講演会や、意識啓発の講演会を実施する。	・担任と復任が連携して、個別面談を行うなどして、進路希望につながる学習の教育相談を実施する。 ・課題をしっかりやり、予習、復習を効果的に行うよう指導する。 ・模擬試験に対しての指導を充実させる。 ・進路講演会が、生徒に有用な情報を提供すると共に、進路に対しての意識を啓発する内容になるように計画する。	C	
	６学年	・大学入試センター試験における国公立大学型受験率 90%以上。 ・国公立大学進学率 50%以上。 ・難関大学進学率 10%以上。 ・進路講演会を保護者向け、生徒向けに向け開催する。	・普段の授業の内容をアップさせるよう各教科で努力していく。 ・容易に私立大学受験にシフトしないよう面談を通じ、指導していく。 ・講演会を企画し実施していく。 ・補習や個人指導を充実させ、難関大学を志望する生徒の希望をかなえる。	A	
	国語科	・学力推移調査において、全国偏差値 54 以上が 50%以上となる。【前期課程】 ・進研模試において、全国偏差値 58 以上が 50%以上となる。【後期課程】	・学力推移調査や模擬試験後に、各授業で復習を行う。 ・日々の授業において予習・復習を促す。 ・読書習慣をつけさせる。	B	
	社会科	【前期課程】 ・３年生の 50%がＳＡＴ本試験で達成、再試験後に、合計 80%の生徒が達成する。 【後期課程】 ・５年進研模試で偏差値 58 以上の生徒が 50%以上 ・センター試験で７割以上得点した生徒が 50%以上	・各テスト後の「振り返り」を確実に行わせ、理解できていない事項の定着をはかる。 ・前期課程では、単元ごとに小テストを実施し、教科書内容の定着をはかる。 ・後期課程では、進学者向けの補習を計画的に実施し、模試や大学入試問題を活用し、国公立大学入試に対応できる学力の養成と意識づくりをはかる。	B	
	数学科	・学力推移調査において、全国偏差値 54 以上が 50%以上となる【前期課程】 ・進研模試において、全国偏差値 58 以上が 50%以上となる。【後期課程】	・1 つの模試において、①過去問での対策→②受験→③振り返り→④結果分析→⑤解説・解き直し　を行う。 ・定期考査において、①テスト勉強→②受験→③結果分析→④振り返り　を行う。	C	
	理科	・生徒の学習定着の状況をきめ細かく把握する。 ・基礎基本の定着を目指す反復学習を行う。	・振り返り学習や再テストを実施し、躓きの早期発見を行う。 ・成績不振者には補習や基礎の反復学習を行う。	A	
	英語科	・NRT において、全国偏差値 58 以上が半数以上になる。【前期課程】 ・進研模試において、全国偏差値 54 以上が半数以上になる。【後期課程】 ・模擬試験における偏差値の下落を最小限が留まるよう努力する。	・必要な場合、各種試験の事前指導、事後指導を行う。 ・Can-do の計画などを活かし、年間の細かい計画を立て、実行する。 ・授業内容を、楽しく、かつ充実した内容になるように工夫する。 ・進路と連携し、各種情報を最大限利用し、生徒に適切な指導を行う。	B	
	保健体育科	・自分の立てた目標を達成するために工夫して活動し、技能や体力を向上させる。	・練習内容や用具・場の工夫など、いくつかの練習方法を取り入れながら授業を進める。 ・単元によっては、自由練習の時間を設定し、個人やグループの課題に応じた練習を工夫させる。	B	

重点目標	具体的目標		具体的方策	評価	
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	教務部	・ＬＦＥ活動を通して、他学年の生徒とも自分から関わろうとする気持ちを育む。 ・道徳教育の質的向上を図る。	・ＬＦＥ活動において、親睦レクリエーションを実施し、親睦を深める。 ・ＬＦＥ活動において、生徒同士が関わる活動を充実させる。 ・道徳の指導計画において、授業の質的向上を図るための手立てを記載する。	B	A
	生徒指導部	・明るく元気な挨拶が自然に飛び交う学校づくりを目指す。 ・小さなトラブルでもいじめに発展しないよう、常に情報収集と共有に努め、組織的に早期の問題解決を図る。 ・登校しにくくなっている生徒の情報を定期的に共有し、欠席しがちな生徒に適切な支援を行う。	・自発的に自然な挨拶ができるよう、生徒が中心になって「挨拶運動」を定期的に行う。 ・学年、分掌など各部会で定期的に情報交換する。情報交換シートなどを活用して、その情報を学校全体で共有し問題解決に当たる。 ・いじめ・不登校対策委員会を中心とした支援体制を確実に機能させる。各部と連携を取りながら個別支援計画を作成し、支援に当たる。	C	
	進路指導部	・未来に夢や希望をもち、自らの人生や新しい社会を切り拓く力を身につけ、自主的に考え行動する資質・能力の育成を図る。 ・ＳＡＣや職場体験学習などの集団活動において、規律を守ることや挨拶に対する意識を高める。	・人間として自らの人生をどう生きるかを一人一人に考えさせる学習を、進路学習全体を通じて適切に行う。 ・ＳＡＣや職場体験学習などの事前指導や活動中の指導を適切に行う。	A	
	１学年	１　いじめ見逃しゼロ ２　不登校生徒数の減少 ３　元気の良い挨拶・清掃（黙動）の励行 ４　ＬＦＥ（異学年集団活動）の充実	１・２　「週の振り返り」で月末にはいじめに関するアンケートを含み、学年部、教科担当に回覧して情報を共有し、複数の目で生徒を見とり、　教育相談を適宜行う。 １・２　いじめがあるなしにかかわらず日常的に「いじめ」「からかい」についてについてアンテナを張った指導を行う。 １・２　家庭との連携をとり、欠席１日目は保護者との連絡、連続２日目からは本人との連絡、３日目は家庭訪問を行う。 ３　「いつでも」「どこでも」「誰にでも」あいさつできる風土を醸成する。 ３　清掃活動を具体的に指導し、徹底する。各クラスに整美係を設け、教室内の美化に努めさせる。 ４　生徒による活動の場面を多く設定する。（リーダー性の育成） ・学年内で連携を図り、より多くの目で生徒を観察する。 ・道徳の時間の質的な向上と充実を図る。（計画的実施と生徒の心を揺さぶり、主体的にかかわる授業の積み重ね）	B	
	２学年	・自分の仕事に責任を持って自主的に取り組ませるとともに、仲間と協力し合う姿勢を養う。	・行事等の意義や理想的な取組の姿を事前に指導することで、行動に意味付けをする。 ・仲間や集団の良い点を生徒に紹介することで、目指す姿を気付かせ、称賛の気持ちを拍手で表現させる。	A	
	３学年	・他人の心の痛みがわかる生徒、感謝の気持ちを持てる生徒を育成し、いじめや不登校のない集団づくりを行う。 ・集団の一員として各自の役割や仕事に責任を持って取り組む姿勢や、仲間と協力し合い自主的・主体的にかかわる態度を育成する。	・「学校生活アンケート」等を活用しながら教育相談を充実させる。 ・明るく元気なあいさつや返事、教室内の整理整頓、清掃活動を充実させ、生徒の公共心を培う。	A	
	４学年	・教育相談の充実を図り，いじめや不登校のない学級・学年づくり，集団づくりを行う。 ・教室内の整理整頓・清掃活動の充実を通して、生徒の公共心を培う。 ・服装・身だしなみ指導，規則の遵守を徹底する。 ・道徳の授業を通じ、人間の存在について理解を深めるとともに、社会を構成する一員としての己の存在を自覚させる。	・生徒への指導や教員の見取り等で、いじめを防止する。「生徒アンケート」も実施する。 ・清掃を徹底するとともに、各クラスに整美係を設け、教室内の美化に努めさせる。 ・ＬＨＲやＳＨＲの時間を利用し、規則の遵守について指導する。 ・ＬＨＲや総合的な学習の時間に、道徳や人権教育の授業を実施する。	B	
	５学年	・教育相談の充実を図り、いじめ、不登校のない学年づくり、集団づくりに努める。 ・教室内の整理整頓をし、清掃活動の充実を通じ、生徒の公共心を養う。 ・総合学習等で、人権や選挙のしくみについて学ぶ。	・いじめに関する生徒アンケートの結果に気を配り、学年主任が面談等を行い、いじめを防止する。 ・清掃を徹底すると共に、各クラスに整備係をもうけ、教室内の美化に努める。	B	
	６学年	・教育相談の充実を図り、いじめや不登校のない学年・学級づくりや集団づくりを行う。 ・挨拶や清掃をきちんと行うよう、日頃より細かく指導する。 ・人権教育を通じ、人権意識を高める。 ・行事に積極的に参加し、クラス意識、学年意識を高める。	・アンケートの結果を詳細に分析し、早めに面接を行う。 ・行事への積極的参加を促す。	B	
	国語科	・現代文、古文、漢文の各教材を通して、公共心と規範意識の向上を目指す。	・意見発表やグループ討議など、生徒が自ら考えて活動する時間を増やす。	A	

	社会科	・道徳教育推進事業・研究推進校として授業を通し、公共心の育成を図るとともに、人権尊重の意識を高める。	・各学年の授業で、公共心について考えさせるとともに、人権問題にも触れ、現代社会についての考察を深めるとともに、社会の構成員として、自己のあるべき姿について考えさせる。	A	
	数学科	・授業の開始終了時刻を厳守する。	・チャイム前に教室で待機し、生徒に行動を促す。 ・授業計画をしっかり立て、見通しをもって授業を行う。	A	
	理科	・授業の開始終了時刻を厳守する。	・チャイム前に教室で待機し、生徒に行動を促す。 ・授業計画をしっかり立て、見通しをもって授業を行う。	A	
	英語科	・授業開始と終了の時刻を厳守する。 ・生徒が、互いを尊重しながら、ペアワークやグループワークができるよう指導する。	・授業時間の開始と終了を正確に行う。 ・授業計画を綿密に立て、板書の書き方および内容、説明の仕方、アクティブラーニングの活動内容を工夫する。	A	
	保健体育科	・グループでの役割を果たしたり教え合い学習をしたりするなど、仲間と協力して活動する態度を育てる。	・グループ活動を取り入れ、協力し合う場を設定する。 ・仲間と協力しなければ成り立たない活動を取り入れる。	A	

重点目標	具体的目標		具体的方策	評価	
心身鍛練及び健康管理の充実	教務部	・チャレンジウォークで、生徒に達成感を持たせる。 ・チャレンジウォークを円滑に運営し、生徒の完歩率を向上させる。	・チャレンジウォークのコースについて、検討し、適切なコースづくりを行う。 ・事前準備やスタッフの打合せを綿密に行い、当日の業務に支障がないようにする。 ・生徒への事前指導を充実させる。	B	B
	生徒指導部	・自己実現に向け、主体的に生活習慣の見直しを図り、生活リズムの確立と共に健康管理能力を高める。	・学級担任は、生活記録等を活用し、自分に合った生活リズムが作れるよう指導する。 ・生活習慣の重要性を学ばせるために、発達段階に応じた保健講座を実施する。	B	
	１学年	1　部活動加入率８０％以上 2　自己管理につながる保健講座の充実 3　チャレンジ・ウォークの全員参加・完歩	1　部活動の意義と、具体的な活動と成果について複数回の指導を行う。 2　「保健」の授業と関連した内容で、養護教諭がかかわる授業（講座）の設定。 3　チャレンジウォークにおいて学級での目標設定と達成のプロセスを具体化する。 4　チャレンジウォーク前のトレーニングを学年で実施。 4　スキー、マリンスポーツの地域スポーツを実施。	A	
	２学年	・自分の心身の健康管理を確実に行い、欠席や遅刻、早退をしないようにようにさせる。	・生活記録ノートを利用して生活リズムを確認し、個別指導に生かす。 ・欠席や遅刻、早退の多い生徒に対して教育相談を行うとともに、その保護者と連携して改善を図る。	A	
	３学年	・文武両道を目指し、積極的に部活動に参加する生徒を育成する。 ・自己の生活を定期的に振り返らせる。	・チャレンジウォークで「全員一斉の完歩とゴール」を目指す。そのための意識を高める。 ・部活動への積極的な参加を呼びかけ、後期課程まで継続させる。	B	
	４学年	・知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成する。	・部活動に加入している生徒は継続できるよう、ＨＲ等でを励ます。 ・保育や体育に興味を持たせ、道徳について考える機会を設ける。	B	
	５学年	・知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成する。	・欠席・遅刻・早退等が少なくなるよう気を配る。連続する生徒に、教育相談を実施する。 ・部活動に加入している生徒には、最後まで、活動をがんばるよう奨励していく。	B	
	６学年	・欠席・遅刻・早退等がない学年・学級づくりを行う。	・「生活記録表」の点検を行い、生徒の実態を把握する。 ・気になる生徒への対応（質問や面談）を速やかに行う。	A	
	国語科	・様々な教材を通して多様な考えや価値観に触れさせ、人間を理解する。	・現代文分野、古典分野の教材を通して「人間とは何か」を考え、そこから自己や他人を理解する力を身につける。	A	
	社会科	・課題を欠かさず提出させる。	・原則として毎週各学年ともに課題を課し、毎週期日を守り提出することを徹底させ、自己管理能力や規律性を身に付けさせる。	B	
	数学科	・生徒が 48 分集中して授業を受ける。	・生徒への指示や発問は、生徒の活動を止め、板書などの視覚情報を用いて簡潔に行い、メリハリのある授業を展開する。	A	
	理科	・座学と実験のメリハリをつけ、場面に応じた振る舞いができるようにさせる。	・生徒への指示や発問は、生徒の活動を止め、板書などの視聴覚情報を用いて簡潔に行い、メリハリのある授業を展開する。	C	
	英語科	・生徒の体調に気を配る。 ・生徒が授業に集中し、自発的に発言する姿勢を育てる。	・生徒全体を見渡し、体調不良の生徒や、注意力散漫な生徒のケアをする。 ・指示や発問および効果的な視覚情報の提示方法を考える。	A	
	保健体育科	・継続した運動の効果を理解し、毎時間のウォーミングアップで定められた距離を走り通す態度を育てる。	・ウォーミングアップの重要性や、継続することの効果を繰り返し指導する。 ・しっかり走っている生徒を称賛したり、そうでない生徒を激励したりと、声掛けをする。	C	

重点目標	具体的目標		具体的方策	評価	
故郷への愛着・共生、気づき・かかわる力の向上	教務部	・「かしわざき学」と関連したLFE活動を行う。 ・ＬＦＥ活動において、地域に関心をもち、調べたこと、気づいたことを分かりやすく発表させる。	・ＬＦＥ活動において、「柏崎の紹介」をテーマとしたビデオ、紙面の作成を行い、成果を発表させる。	B	A
	生徒指導部	・学校行事等を通して、学校の取組を地域の人に発信し、地域への関わりを深める。 ・校外での生徒会活動、ボランティア活動等を通して、地域における自分の役割を自覚し、進んで社会に貢献しようとする態度を育てる。	・体育祭、文化祭などの学校行事において、地域の人が参加したり、学校活動を紹介したりする機会を設け、学校に対して関心を持ってもらう。 ・生徒会交歓会、校外育成活動を通して、他校の生徒との交流を図り、連携して地域の問題解決を図る。	A	
	進路指導部	・地域と交流しながら学びを進める中で、地域の課題に積極的に取り組みその解決を目指す意識を高める。 ・授業公開を実施し、保護者や地域の方々に授業を見てもらう。	・地域と学ぶ学習活動を、進路学習全体を通じて適切に行う。 ・授業アンケートを実施し、その結果を参考にして、授業公開を実施する。	A	
	１学年	1「かしわざき学」における地域とのかかわりと地域　を愛する心の醸成 2 アントレプレナーシップの基礎づくり 3 かかわる力、助け合う力の育成	１・２　「柏崎調べ」をもとに年間を通して系統的に地域探究学習を行う。 １・２　自ら設定したテーマで「調べ学習」から「発信や提言」への学び方を学ぶ。 3　地域に出かけて地域で学ぶ学習の設定 3　地域で行うあいさつ運動の実施。(生徒学年委員会)	A	
	２学年	・地域と関わる行事や学習に対して意欲的に取り組ませ、郷土の理解を深めさせる。	・主に、次の行事や学習に対して意欲的に取り組めるよう、事前指導を行う。 ＬＦＥ活動、体育祭、職場体験学習、学年ＰＴＡ主催の福祉体験、翔洋祭、福祉施設訪問、修学旅行	A	
	３学年	・地域について自分たちで調べたこと、それについての意見を地域に発信する。 ・生徒が充実した学校生活を送ることで、保護者へのＰＲを図る。	・「かしわざき学」に取り組ませ、広い見地から意見を収集し分析した上で、自分なりの主張をまとめ、地域に発信する力を育成する。 ・活動の記録や生徒の感想を掲載した学年だよりを、毎週末に発行する。	A	
	４学年	・ボランティア活動に参加することにより、地域社会に貢献する。また、それにより自己肯定感を高める。	・居住地域で、ボランティア活動をし、自己肯定感を高める。	A	
	５学年	・研修旅行の際に、地元との比較や、地元のつながりを意識した学習を行う。	・研修旅行において、生徒の地元と、訪問先の大学や企業とのつながりを学ぶよう計画する。	A	
	６学年	・ボランティア活動に参加することにより、地域社会に貢献する。また、それにより自己肯定感を高める。 ・SAC や放課後補習などの学習活動を通して、自己の進路実現を目指すとともに、家族や地域の支えにより自分が存在していることを認識させ、感謝の気持ちを忘れずに、地元に貢献するという意欲を高める。	・居住地域で、ボランティア活動をし、自己肯定感を高める。 ・学習活動を通じて、地域へ貢献しようという気持ちを高める。	B	
	国語科	・郷土に関連する作品を扱い、地元を学び、地域の方と適切なコミュニケーションを図ることができる感性や言語能力を育成する。	・郷土（新潟）にゆかりのある作品や作家を取り上げ、地域・故郷への愛着を深める。	A	
	社会科	・作文コンクールなどに積極的に応募する。 ・「かしわざき学」を授業や課題などでも積極的に扱い、地域連携・社会貢献および情報発信する能力を養う。	・３年生・４年生は「税に関する作文」・「税に関する高校生の作文」に全員応募する。 ・３年生は人権に関する作文にできるだけ多くの者に応募させる。 ・地域のことを調べ、社会貢献のあり方について考えさせる。それぞれついて事前指導を行う。	A	
	数学科	・他者と協力して、問題を解決しようとする態度や自分の意見を深めようとする態度を育てる。	・授業内において、生徒同士が関わったり、教えあったりする場を設定する。	A	
	理科	・理科を通じて、地域に学校を PR し、地域の特徴を理解する。	・「青少年のための科学の祭典」(市教育センター主催)や科学研究発表会・作品展などに参加をする。 ・地域の植生や原子力などについての内容を扱う。	A	
	英語科	・地元を考え、そこで学んだ考えを、世界の人と共有できる態度を育成する。 ・カナダ研修旅行のホームステイ先で、故郷の紹介を行う。	・実践的な英語力を伸張すると共に、英語を使うことで、世界とどのようにつながるかを意識させる。 ・生徒に地元紹介の英文を作成させる。 ・保護者に対して、カナダ研修旅行の報告を行う。 ・翔洋祭でも、英語によるカナダ研修旅行の報告を行う。	A	
	保健体育科	・長距離走の単元で、地域の人々に頑張って走る姿を示せるようにする。	・校地周辺にコースを設定し、生徒の走る姿を地域の人々の目に触れさせる。 ・生徒の頑張って走る姿が、地域の人々に元気を与えることにつながることを指導する。	B	